

よりスポーティーに、よりアグレッシブに磨き上げた、先進ハッチバックデザイン

■TYPE Rとともに機能的シルエットを構築し細部の表現を徹底

HATCHBACK

ロー＆ワイドな基本骨格をセダンと共有しながら、ハッチバックの特徴であるボディー後半に独自の手法を取り入れました。テールゲートを寝かせ、空力などを考慮しながら、ボディーの基本形状を共にするTYPE Rとともに機能的かつ革新的なハッチバックのシルエットを構築。そのうえでセダンよりもさらにスポーティーでアグレッシブな表現を細部にわたって突き詰めました。

サイドビュー

セダンと同じホイールベースとしながらハッチバックはリアオーバーハングを短縮し、タイヤの四隅配置をいっそう強調。テールゲートを極力寝かせルーフ後端からリアエンドまでをなだらかにすることで、居住空間の広さやラゲッジスペースのゆとりを感じさせるとともにハッチバックの革新的なシルエットを生み出しています。また、タイヤにはセダンの16インチに対して18インチを採用。ダイナミック性能を高めています。



フロントビュー

セダン同様、ボンネットやフロントフェンダー、バンパーなどの形状によってロー＆ワイドをいっそう強調。フロントグリルにはセダンのクロームに対してピアノブラックを採用し、バンパーまわりの開口形状をより大型化。さらにピアノブラック塗装のロアガーニッシュをフロントバンパーからサイドシル、リアバンパーまで全周に設置するなど、アグレッシブでエキサイティングなスタイリングに仕上げています。



リアビュー

ルーフからリアエンドまでなだらかにつながるテールゲートは、寝かせたことで大開口を実現し、ユーティリティ性の向上にも寄与しています。さらにルーフエンドに設けたスポイラーはリフトを抑える効果を生むなど、テールゲートスポイラーとともに空力効果を発揮。機能を備えたスポーティーデザインを形成しています。また、リアバンパーに配した大型のエアダクト形状や、センターデュアルエキゾーストは走りのイメージをいっそう高めています。

